

江戸東京 たてもの園

江戸時代から昭和初期までの復元建造物を、四季折々の風景とともに楽しむのがこの博物館の魅力。今回は全30棟の中から、建築様式の対照的な2棟をピックアップ!

絵・文:溝口イタル

A デ・ラランデ邸

ドイツ建築家ゲオルグ・デ・ラランデが1910(明治43)年ごろ木造平屋建ての住宅を3階建てに大規模に増築したもの



室内はデ・ラランデが住んでいた大正時代初期ごろの様子に復元されています

3方に窓があり
明るい2階の主寝室



部屋のつくりはシンプル
かつ上品

食堂だった部屋と居間は
カフェ(武蔵野茶房)として
使われています



有機珈琲
(600円)

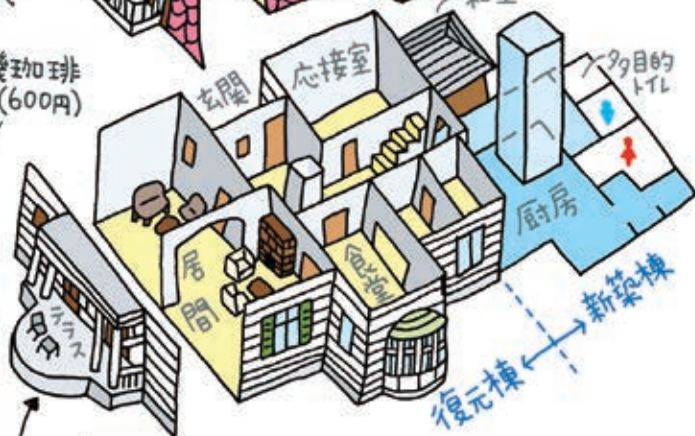
花が一輪

特製おいものパフェ
(850円)

開放的な外のテラス席



車椅子でも観覧できるよう
新たに設置したエレベーター

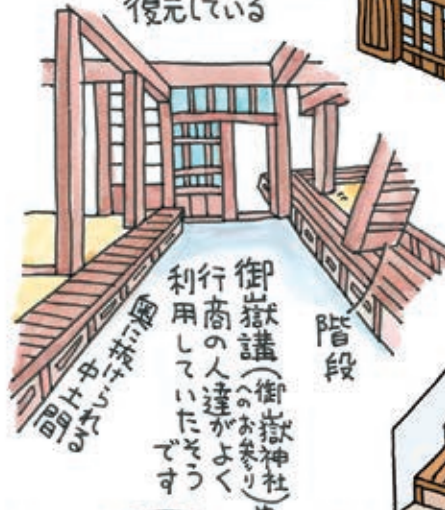


B 万徳旅館

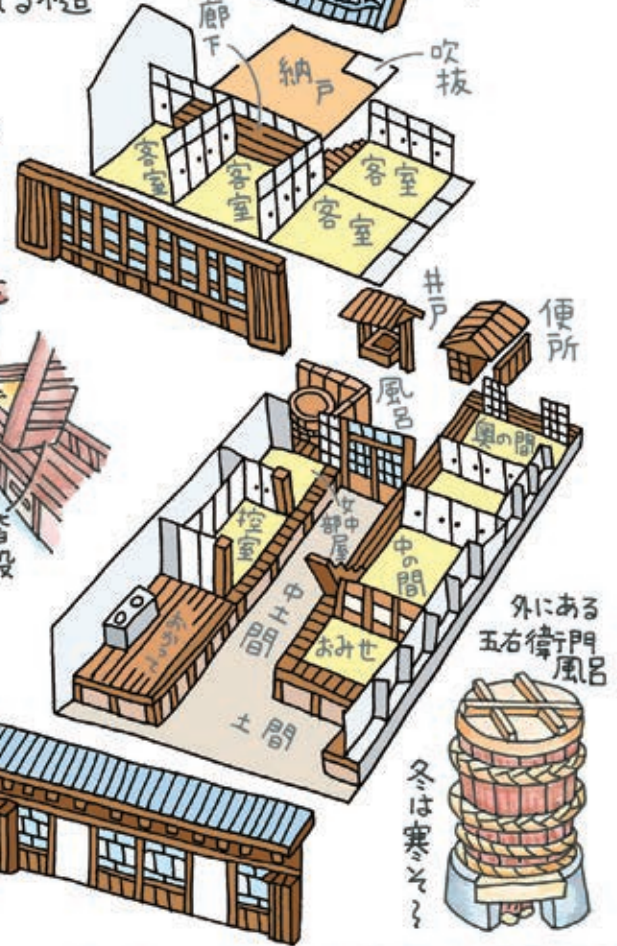
江戸時代末期から明治時代初期に建てられたとされる木造2階建ての旅館



建物は創建当初、室内は1950(昭和25)年ごろの様子を復元している



御嶽講(御嶽神社)や
行商の人達がよく
利用していたと
そうです



外にある
五右衛門風呂

冬は寒そそ



名入りのガラス

東京の青梅市で平成5年ごろまで営業していました

『街道沿いに建っていたのを憶えています。その後、なくなったと思っていたら、ここに移築されていてビックリ!』

